

大学

企画課管理用 社 ー B ー 1

推進主体	学長室広報センター
責任者	学長室部長

分類	実施計画		開始年度	完了年度	将来的な継続
社 ー B	①生涯学習・市民講座等を通じた研究成果の社会への還元への推進		令和 4 年度	令和 7 年度	あり(予定)

① 目的・内容

生涯学習を推進する取り組みとして、豊島区と連携し、「としまコミュニティ大学」を開設している。現在、3講座を開設しているが、開設科目数の拡大や内容の充実、受講者の増加等への取り組みに向け、豊島区と情報を共有し、意見交換を行う。平成30(2018)年度より、講座を土曜日の14時開始に設定し、近隣の高校生が授業終了後に参加しやすい環境作りを進めていることから、大学の学問に触れられる機会として、入試広報の観点も踏まえた上で検討を行う。また、本学の各部門で開講している公開講座については、イベント告知以外にも様々なツールを活用して情報を発信し、より積極的な広報活動を行う。

② 到達目標(数値目標/定性目標) **※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。**

「としまコミュニティ大学」の充実した取り組みになることを目指すとともに、公開講座等の広報も強化し、より多くの方に受講してもらえることを目標とする。

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定		豊島区と情報交換					
		見直しに向けた検討、実施					
		公開講座の情報発信					

④ 数値目標の詳細 **※設定できない計画については記載不要。**

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1							
直近		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2							
直近		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	「としまコミュニティ大学」は、コロナ禍で規模を縮小して開催している。豊島区との情報交換を通して、現状の課題や今後の展望を確認し、新たな取り組みにつなげられないか検討する。	「としまコミュニティ大学」について、昨年度は、コロナ禍の影響により、定員を絞り、豊島区の施設を会場として実施した。今年度は、受入れ人数を増やして、本学の教室を会場として実施することができ、コロナ禍前の形態に少しずつ戻りつつある。豊島区とは、今年度の振り返りを行い、今後の運用や展開について検討する。 ★進捗段階:「計画立案」
令和5年度 (2023年度)	「としまコミュニティ大学」について、コロナ禍で規模を縮小していたが、少しずつコロナ禍前の形態に戻っている。前年度の振り返りをした上で、課題の改善や今後のさらなる充実に向けて取り組んでいく。	「としまコミュニティ大学」では、本学を会場とし、3つの講座を提供した。豊島区や区内大学との会議を通して、今年度の振り返りを行い、今後のさらなる充実について、協議していく。 ★進捗段階:「実施展開」
令和6年度 (2024年度)	「としまコミュニティ大学」の今後のさらなる充実に向けて、講座の提供とともに、豊島区や他大学と連携して取り組む。	本学を会場として、法学部、国際社会科学部、理学部から3つの講座を提供した。講座の提供は、5学部1研究科が隔年で担当する仕組みとなっており、昨年度は、法務研究科、法学部、文学部が担当したが、法学系が2つ含まれるという点が課題として挙がっていた。このため、今年度は本来、経済学部、国際社会科学部、理学部が担当する予定だったが、経済学部の代わりに法学部が2年連続担当した。この調整により、次年度は法務研究科、経済学部、文学部が担当する予定となっている。 ★進捗段階:「実施展開」
令和7年度 (2025年度)	「としまコミュニティ大学」で3つの講座提供を予定している。ここ数年、運営方法が確立され、安定して実施できていることから、過年度の実施状況も踏まえ、本計画の取り組みを検証する。	本学を会場として、法務研究科、経済学部、文学部の協力により、3つの講座を開講した。運用体制が確立し、安定して運営できていることから、本計画としては終了とする。 ★進捗段階:「計画達成」

⑥ 計画の成果・今後の方針 ※計画を中止する場合はその理由を記載のこと。

1. 計画の成果

コロナ禍で開催形式の変更や規模縮小の影響で、受講者は一時的に減少したものの、ここ数年で徐々に回復している。本学では、講座を担当する学部・研究科の順番を見直すことで、分野のバランスが取れた講座提供につながり、安定した運営を実現できた。

2. 今後の方針

毎年、豊島区および区内大学との会議を通じて、当年度の振り返りと次年度の改善に向けた検討を行っており、今後も受講者数の増加や講座の質向上に取り組む。また、来年度以降は、女子大学との統合により新学部が開設されることから、これを踏まえた新たな講座提供についても検討していく。

※計画完了時点で記載してください。 ○…必須事項 △…必要に応じて記載

○②到達目標に対する結果

○計画の中止理由(※中止する場合)

△今後の見通し・課題(通常事業化など)

△その他